

ヒルガオ科 ヒルガオ属

ヒルガオ (昼顔)

Calystegia japonica Choisy

自生環境

道ばた、畑地、野原 など

原産地

日本在来

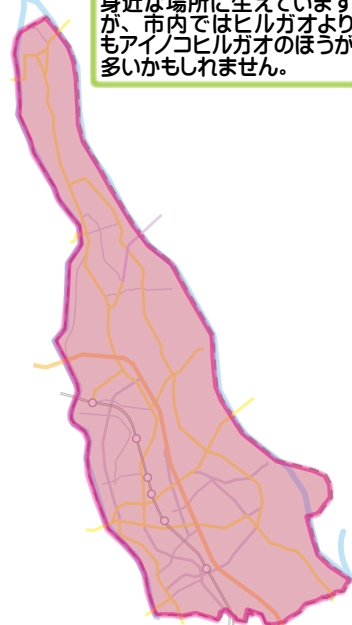
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

身近な場所に生えています
が、市内ではヒルガオよりも
アイノコヒルガオのほうが
多いかもしれません。



特徴

- ☆ 朝しか咲かない「朝顔」に対して、昼間もずっと咲いているので「昼顔」と呼ばれます。日当たりのよい場所にふつうに生える多年草で、地下茎をのびしながらどんどん広がっていきます。また地上の茎はつるになってあちこちに絡みつきます。
- ☆ 葉には耳のようなものがあります。同じ仲間のコヒルガオはこの耳が真横に張りだし、さらに2つに切れ込みますが、ヒルガオは後ろに張りだし切れ込みません。ただ市内では葉のかたちが中途半端なアイノコヒルガオがかなり多く見られます。
- ☆ 6～10月ごろ、葉のわきから直径5 cm ほどのピンクの花を咲かせます。花色の濃淡は株によってちがいますが、コヒルガオに比べると色が濃い傾向にあります。またコヒルガオと異なり、花柄はつるつるでフリルのような翼はありません。テンシボタン(ヤエヒルガオ)という八重咲き品種があり、稀に栽培されます。

アイノコヒルガオとは?

ヒルガオとコヒルガオは、花柄にフリルのような柄があるか、葉の耳の張りだし向き・切れ込み具合の2点が大きな識別点となります。ところが実際に観察していると、どちらともつかず判断に悩むような株に出会うことが珍しくありません。これがアイノコヒルガオで、ヒルガオとコヒルガオの雑種と考えられています。市内のものは純粋なコヒルガオやヒルガオは少なく、多くはアイノコヒルガオです。



アイノコヒルガオ

ヒルガオとコヒルガオの雑種



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

